

## 組み立て説明書

この度はFirst Air Model Factoryのガレージキット第2弾「IDFベングリオン(センチュリオン改)」をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

### 1、実車について

ベングリオンはイスラエルがセンチュリオンを独自に近代化改修したものです。  
 1959年の装備以来、段階的な改修が続いています。  
 サーマルスリープ付き105ミリ砲、ADVS-1790-2Aディーゼルエンジンへの換装がおこなわれています。  
 (ギアボックス、ブレーキの変更も行われています。)

### 2、「IDFベングリオン(センチュリオン改)」キットについて

このベングリオン改造セットはFirst Air Model Factoryのキャストキット第2弾です。  
 エアフィックスのセンチュリオン用につくられています。  
 セットには砲塔、砲身、エンジンデッキ、リアクティブアーマ、雑具箱、(車体)テールエンド、エアクリーナが含まれています。  
 このセットを利用することで1982年のレバノン侵攻以降のスタイルを再現することができます。

### 3、エアフィックス社センチュリオン・キットについて

キットはリリース時期が古く、組み立てにくい箇所もありますが基本形にすぐれたキットです。  
 このキットのうち車体上部前半と車体下部、そして足まわりと一部の小物、履帯パーツを使用します。

### 4、車体を組み立てる

まずエアフィックスのパーツから車体下部を組み上げます。作業はエアフィックスキット付属の説明図にしたがいます。  
 車体上部および下部のパーツは矢印の位置でカットします。車体正面の凸モールドのうち、下部(矢印A)を削り取っておきます。  
 エンジンデッキとテールエンドのパーツとを組み合わせて入念に仮組みをおこないます。  
 エンジンデッキ裏側の湯口(矢印B)は干渉するのでカットしておきます。



### 5、エンジンデッキと車体後部

エンジンデッキ固定後、テールエンドのパーツを取り付けます(図1)。部品寸法にはマージンを設けてあります。  
 テールエンドと車体側面パーツのギャップを調整する場合は、この段階でおこないます。  
 テールエンドに電話ボックスと備品箱を取り付けます(図2)。  
 フェンダーはエアフィックスキットのパーツを利用します。フェンダーが地面と水平になるように取り付け角度に注意します。

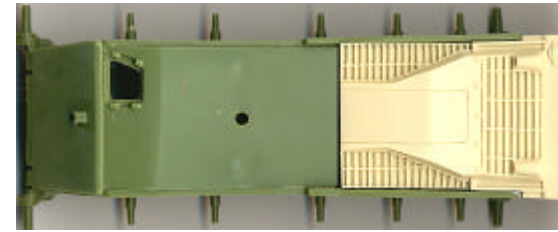


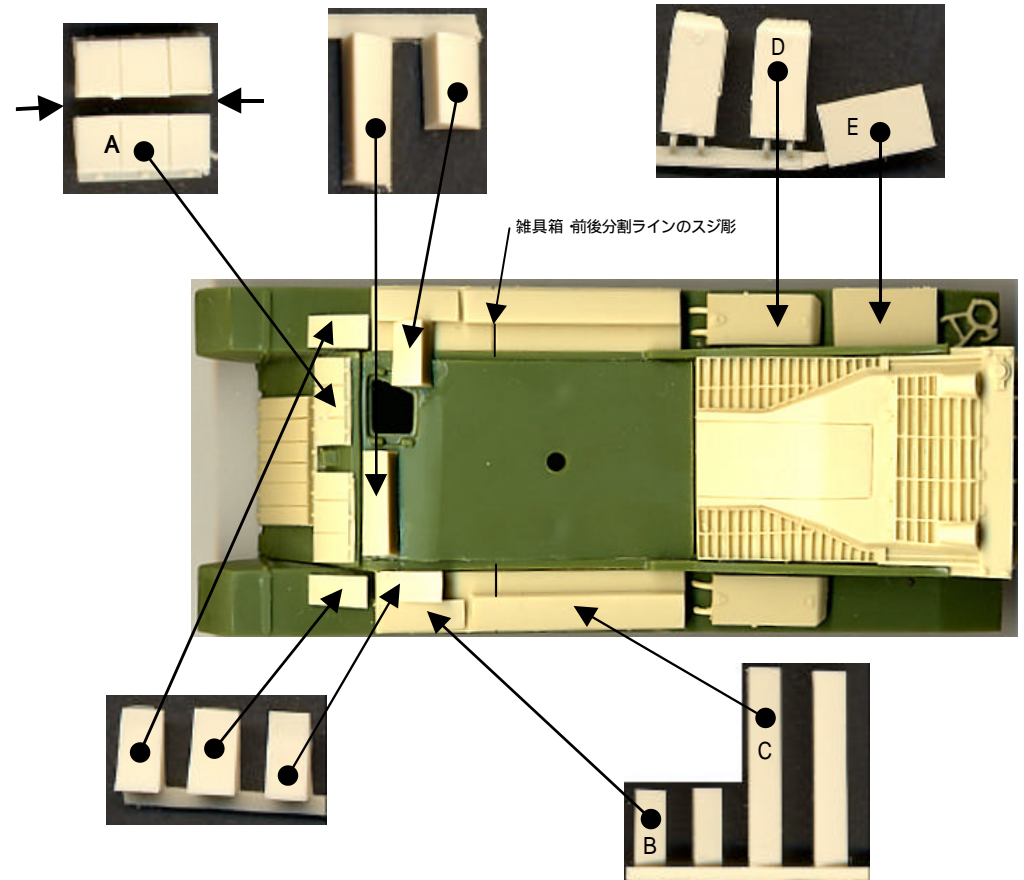
図1



図2

### 6、リアクティブ・アーマとエアクリーナを取り付ける

車体前部にリアクティブ・アーマを取り付けます。前部上段のリアクティブ・アーマ(A)は写真のとおり、半分「L」にカットして使用します。フェンダ上に雑具箱を取り付けます。雑具箱は前後に注意(分割ラインの筋彫りがあります。写真を参考にして下さい)。雑具箱上にリアクティブ・アーマを取り付けます。前方に「短い」アーマ(B)、後方に「長い」アーマ(C)を取り付けます。雑具箱後方にエアクリーナ(D)を取り付けます。エアクリーナはモールドのある面を車体の外側向けます。車体右側にはエアクリーナ後方に「短い」雑具箱(E)、さらに後方にガン・トラベリング・ロックを取り付けます。その他のリアクティブ・アーマを各部に取付けます。



## 7. 砲塔

まず砲身を取付けます。砲口に「ボアサイトミラー」の突起がある側を上に向けます。  
次に砲防盾上、砲塔上面にリアクティブアーマを取り付けます。  
砲防盾上のアーマは砲の左側に車載機銃の砲口の開いたパーツを取付けます。  
キューボラ、コマンドーズ・ハッチ、スモークディスチャージャ（若干上向きに）を取付けます。  
砲塔左側面に薬莢排出用のハッチを取付けます。

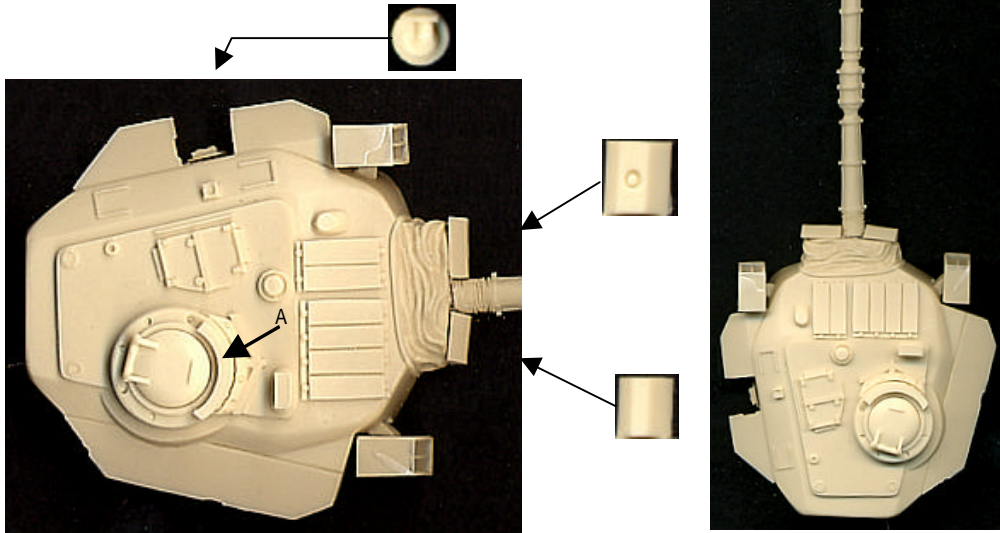
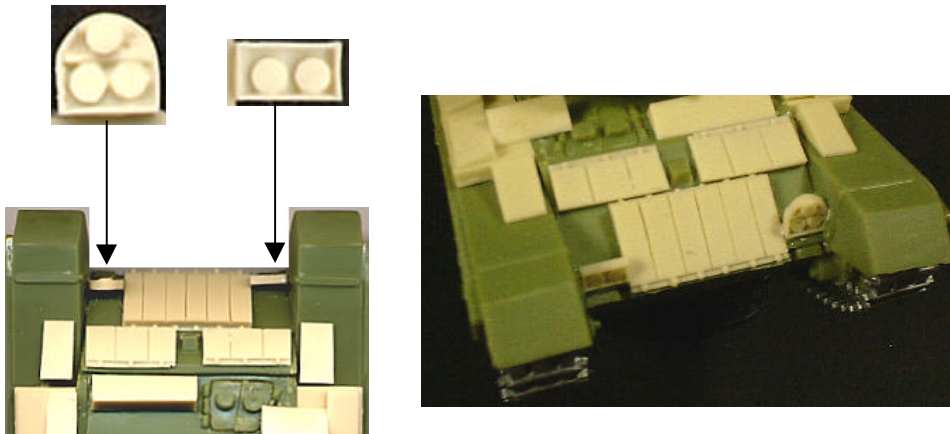


図5 コマンドーズハッチ前方にキューボラ (黒い矢印)を取付けます。

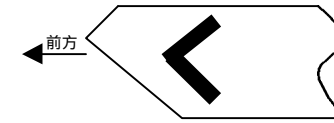
## 8. その他の部品

ヘッドランプを写真の位置に取付けます。  
足まわりはエアフィックス・キットのパーツを使用して説明図の通りに組みます。  
ホイールを取り付けるシャフトは若干長めに成形されているので、先端を現物合わせでカットします。  
付属デカールを使用する場合は、キャタピラ組み付け後にサイドスカートを取り付けます。  
なお実車ではサイドスカートを取り外している場合が多いようです。



## 9. 塗装とマーキング

基本色は「イエローFS33531 (グンゼ産業Mr.カラー#313)」を使用します。  
当ファクトリの前作「M51アイシャーマン」と同様、カラーを特定できる写真や記述はほとんどありません。  
デカールは図の位置に貼ります。



## 10. 資料

原型制作にあたり以下の資料を用いました。

戦車マガジン	83年 11月号 :	ベッカー高原のイスラエル機甲部隊 1/35ベングリオン製作記事 # 1 1/35ベングリオン製作記事 # 2
	83年 12月号 : 90年 4月号 : 92年 2月号 :	博物館のセンチュリオンMk3 「DF機甲学校のメルカバMk3」
PANZER	85年 11月号 : 86年 7月号 : 88年 3月号 :	「イスラエルのセンチュリオン戦車 (1/35図面あり)」 各国で使われたセンチュリオン オーストラリア陸軍のセンチュリオンMk5
モデルアート	84年 10月号 :	1/35ベングリオン製作記事
ホビージャパン	80年 1月号 :	1/35ベングリオン製作記事
FineScaleModeler	96年 1月号 :	1/35ベングリオン製作記事
COCORD :		TANK BATTLES of THE MID-EAST WARS(2)
VERLINDEN :		WARMACHINES #3 M60A3
グランドパワー 10月号別冊 :		世界の戦車 (2) 1/72図面あり (PANZER85年11月号図面の縮小)
MILITARY Miniatures IN REVIEW(MMIR) #22 :		Core&1/35 キャストキットの紹介

## 11. 原型制作者から

前作「M51アイシャーマン」につづくイスラエルもの第2弾です。当ファクトリの製品第2作でもあります。  
次回はM60(ブレイザー)やメルカバでは、とぉ考えましょうか？  
残念ながら過去のESCを超える出来でそれらをフルキットで開発するには、もう少し技術の蓄積が必要です。

次回作は皆さんお待ちかねの「ドイツもの」です。  
と言っても当ファクトリのこと、ちょっとヒネッて現用ドイツから「ローラント2」と「ヴァルト」を予定しています。  
いずれもReveのキット(マルダー1A3、レオバルドHA5)を利用した改造セットです。どうぞお楽しみに。

## 12. First Air Model Factory ホームページ

URL : <http://fly.to/firstair/>

E-mail : [genji\\_firstair@nifty.com](mailto:genji_firstair@nifty.com)

